

子ども家庭福祉のN I E授業実践の経年変化比較

ー『N I E子ども家庭福祉演習』を中心にー

○ 中国短期大学 松井 圭三 (002473)

藤田 了 (大阪国際大学・009058)、今井 慶宗 (関西女子短期大学・006951)

キーワード：子ども家庭福祉 N I E 新聞

1. 研究目的

2024年度、A短期大学保育学科2年生の科目「子ども家庭福祉」においてN I E実践を行った。各回の授業では、ワークブックである『N I E子ども家庭福祉演習』に掲載してある各章ごとの新聞記事を用いたワークをするとともにワークシートに関連した関連したDVDを鑑賞した。さらに子ども家庭福祉の各分野について学生が各章ごとのテーマの新聞記事を自由に探し、スクラップ・精読し、語句・法律・制度を調べ、さらに記事を読んだ感想をワークブックの章ごとに設けてあるスペースに貼付・記入した。なお2017年にもこのワークブックのシリーズの『N I E児童家庭福祉演習』を用いて類似の内容を実践した(当時の授業科目名は「児童家庭福祉」)。「子ども家庭福祉」の終了時に「N I E実践後の効果アンケート」を行い、集計・分析した。このアンケート結果を集計し、2017年に実施した「N I E実践後の効果アンケート」と比較し、変化の有無を分析するとともに、N I E実践の効果や教育上の指導課題について考察した。

2. 研究の視点および方法

対象は、A短期大学保育学科2年生の履修科目「子ども家庭福祉」履修の学生であり、回答数は47人であった。調査日は2024年6月21日である。N I E実践の効果や、新聞に対する意識調査を行った。効果測定については、多肢選択式による量的把握だけではなく、理由についての自由記述による内容把握も行った。

3. 倫理的配慮

集計したアンケートは、匿名化し研究上使用することを示して回答を得ている。回答は途中でやめることもでき、回答内容により成績評価には影響しない。人名は出さず、地名もアルファベットにしており個人が特定されることはない。一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程等にとっとり、研究を実施している。開示すべきC O Iはない。

4. 研究結果

『N I E子ども家庭福祉演習』を用いて子ども家庭福祉関係の制度や法律等の語句を調べたことが子ども家庭福祉を学ぶことに役立ったかという設問に対して、「よく役に立った」「役に立った」「少しは役に立った」という回答の合計は前回比30.5ポイント増であっ

た。「あまり役に立たなかった」「役に立たなかった」「全く役に立たなかった」の合計は、前回比 10.1 ポイント減であった。授業で実際の新聞を活用して、「子ども家庭福祉」の記事をスクラップし、その記事の中で「子ども家庭福祉」に関係した制度、法律、サービス、期間、施設等の語句を 3 つ自分で選び、調べた作業が「子ども家庭福祉」を学ぶ上で役に立ちったかについては、「よく役に立った」「役に立った」「少しは役に立った」の合計は今回は 89.3% であった。知識が向上した、調べる機会になった等という回答が上位を占めた。

『N I E 子ども家庭福祉演習』の授業後、ワークシートに関連した DVD を鑑賞したことが「子ども家庭福祉」を学ぶ上で役立ったかについては、「よく役に立った」「役に立った」「少しは役に立った」の合計は今回 95.7% であった。

今回、N I E 実践後に課したレポートが、文章表現の向上に役立ったかという質問については「よく役に立った」「役に立った」「少しは役に立った」の合計は今回 87.1% である。役立った理由の首位は「書くことで振り返ることができた」というものであった。

『N I E 子ども家庭福祉演習』の実践とワークシートに関係しテーマの DVD 学習及び感想、質問レポートは「子ども家庭福祉」を学習するうえで役立ったかについては「よく役に立った」「役に立った」「少しは役に立った」の合計は 95.7% であった。役立った理由は、理解が深まった・知らないことを知った・福祉課題について知った、が複数あった。

今回、本実践後に新聞を「よく読むようになった」「少しは読むようになった」「もともとよく読んでいた」の合計は 29.8% で前回比 13.5 ポイント増である。「変わらない」は前回も今回も最頻値を示している。「ほとんど読まない」「読まない」「以前より読まなくなった」の今回の合計は 27.7% で前回比 17.8 ポイント減である。「読む」「読まない」という理由に変化は見られない。新聞を読む時間の増加は、最頻値は前回同様 5 分以上 10 分未満である。「読むようになった・読む」と答えた人が読む記事は今回は新聞全体、家庭・暮らし関係、芸能スポーツ関係、地元の情報関係が回答が複数ある。政治経済関係と社会保障・社会福祉関係は回答が 0 であった。なお、本実践後の感想を自由記述で求めたところ、福祉制度や福祉サービスについて知った、社会の現状・問題を知った、というように福祉課題や福祉サービスについて知ったという回答が多くを占めた。

5. 考察

7 年前の調査後に比し N I E 実践に肯定的な回答が増加している。この授業が新聞購読に一定の効果があると考えられる。但し、前回調査対象者は今回の約 2.6 倍で科目受講者が大幅に減少しているため、役に立ったとする者の増加がこの数値通りの傾向を示すとは明確には言い難い。今回は DVD 鑑賞という要素が入り、これも「役に立った」と考える者が増加した一因と考えられる。一方で、授業前より新聞を読むようになったかについて「変わらない」「ほとんど読まない」「読まない」の合計が今回も 70.3% も占めているように、授業終了後も継続して読むという点についてはさらなる取り組みが必要と考えられる。